

令和6年度

静岡大学大学院総合科学技術研究科
農学専攻（修士課程）

12月学生募集要項

令和5年10月



静岡大学

令和6年度静岡大学大学院総合科学技術研究科 農学専攻(修士課程) 12月学生募集要項

◇静岡大学の理念と目標◇

理念「自由啓発・未来創成」

この理念は、教育だけでなく、なにごとにもとらわれない自由な発想に基づく独創的な研究、相互啓発的な社会との協働に不可欠であり、時代を越えて受け継がれるべきものです。静岡大学の学生・教職員は、このような認識の下で、教育、研究、社会連携・産学連携、国際連携の柱として、「自由啓発」の理念を引き続き高く掲げ、共に手を携えて地域の課題、さらには地球規模の諸問題に果敢にチャレンジするとともに、人類の平和と幸福を絶えず追求し、希望に満ちた未来を創り出す「未来創成」に全力を尽くします。

静岡大学は、以上のような意味での「自由啓発・未来創成」の理念のもと、静岡県に立地する総合大学として、地域の豊かな自然と文化に対する敬愛の念をもち、質の高い教育、創造的な研究による人材の育成を通して、人類の未来と地域社会の発展に貢献していきます。

詳しくは <https://www.shizuoka.ac.jp/outline/vision/document/manifesto.pdf> を参照ください。

◇総合科学技術研究科のアドミッション・ポリシー◇

【育てる人間像】

進展するグローバル化社会のなかで、社会的ニーズや科学技術の課題の解決のために、個別の専門分野を越えて柔軟に対応することができ、研究・開発や企業の海外展開における国際交流に貢献できる理工系人材の育成を目指す。また博士課程でのより高度な研究に取り組むことのできる人材の育成を目指す。

【目指す教育】

個別的な専門的基礎の上に立って、関連する専攻や自らの有する知識の社会的位置づけをも含めた、より広い融合的な学際分野について俯瞰する能力、外国語で自らの専門分野及び関連する諸分野について理解し、発表し、議論することのできる国際的な対応能力、および博士課程でのより高度な自立的研究の基礎となる能力を修得させる。

【求める学生像】

現在の様々な社会的・科学技術的な諸問題に対して強い関心があり、研究や科学技術の発展を通じて社会に貢献する強い意欲を持っている学生を求める。さらに国際的な感覚を有し、海外の学生や研究者と協働して学習および研究や開発を遂行できる学生を求める。

【入学に必要とされる資質・能力】

学士課程の個別的な専門分野で形成されるべき基礎的な知識と能力が必要である。またこれらの知識と能力を応用できる思考力、判断力および表現力が必要である。さらに国際的なコミュニケーション能力と共に、多様な人々と協働して学ぶことのできる意欲が必要である。

◇農学専攻のアドミッション・ポリシー◇

【育てる人間像】

環境・バイオサイエンスを基礎として衣食住を充足するための学理や技術を深化させた教育と研究を行い、地域や国際社会の持続的発展に貢献できる人材を養成します。

【目指す教育】

1. 地域や国際社会の発展に関わる専門分野について多くの基礎知識とともに、実験・演習を重視した教育研究により応用力を修得します。
2. 職業人・社会人となる際の基本的な素養を修得し、また、関連産業と研究との関係を広く理解することにより、将来の研究におけるバックボーンを形成します。
3. 自然科学における多様な先端的分野に関する知識や、技術者倫理・社会観を総合的に修得し、専門分野だけでなく周辺領域や融合領域を広く学びます。

【求める学生像】

農学における幅広い基礎知識を有し、研究や技術開発に対する強い意欲のある以下の学生を受け入れます。

1. 環境を重視した持続的な生物資源の生産と利用技術の開発に興味をもち、独創性と応用能力並びに国際感覚を備えた学生
2. 人類生存に直接関わる生物資源や環境問題に強い関心をもち、その解決に貢献しようという使命感あふれる学生

【入学に必要とされる資質・能力】

農学における幅広い基礎知識と志望する分野における専門知識を有し、研究や技術開発に対する強い意欲を持って入学後に勉学及び研究活動を遂行しうる能力を有していることが必要です。このため各コースにおいて、研究活動に必要な基礎学力を判断する専門科目の学力試験と、研究意欲やコミュニケーション力を判断する面接試験を行います。研究を進めるうえで参考文献を理解することができる外国語の読解力も必要とされます。

【入学者選抜の基本方針】

《一般入試》

[生物資源科学コース]

(1) 選抜方針

生物資源科学の学問分野において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。

①学力試験（英語）

（筆記試験を実施せず、TOEICスコアを本専攻が予め定めた換算式で換算した点数を英語の得点とします。）

②学力試験（専門科目）

（筆記試験もしくは口頭試問による。）

③面接試験

(2) 判定方法

①学力試験、面接試験の得点を総合して、各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。

②以下のいずれかに該当する場合は不合格とします。

(1) 学力試験（専門科目）の得点が50%に満たない場合

(2) 面接試験の得点が50%に満たない場合

(3) 総合得点が50%に満たない場合

③出願書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。

[応用生命科学コース]

(1) 選抜方針

応用生命科学の学問分野や関連産業において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断し

ます。

①学力試験（専門科目）

②面接試験

(2) 判定方法

①学力試験，面接試験の得点を総合して，各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。

②学力試験の得点が50%に満たない場合は，他の試験の得点に拘わらず不合格とします。

③面接試験の得点が50%に満たない場合は，他の試験の得点に拘わらず不合格とします。なお，提出書類は，面接試験の評価の基礎資料として活用します。

I 12月入試

1 募集人員

生物資源科学コース (植物バイオサイエンス教育プログラム)
(木質科学教育プログラム)
(地域生態環境科学教育プログラム)
(農食コミュニティデザイン教育プログラム)
若干名
応用生命科学コース 若干名

2 出願資格

令和6年3月末日をもって、下記(1)～(14)のいずれかに該当、あるいは該当する見込みの者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号。以下この条において「法」という。)第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする場合には、大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
- (11) 大学に3年以上在学した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (12) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (13) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (14) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者であって、大学院の定める所定の単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

(注) 上記(9)～(10)の出願資格及び(11)～(14)の飛び級(p.12参照)に該当する者については事前の審査を行います。該当者は、令和5年10月6日(金)までに願書提出先に必要書類を請求してください。

3 出願手続

(1) 出願期間

令和5年10月30日（月）～11月6日（月）の平日9時～12時30分、13時30分～16時
郵送の場合は、令和5年11月6日（月）16時までには必着のこと。

(2) 出願方法

出願書類及び検定料を一括とりそろえて出願期間内に下記あて提出してください。
郵送の場合は、必ず「速達・書留」とし、封筒に「大学院出願書類在中」と朱書きとしてください。

(3) 出願書類提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学農学部学務係 TEL 054-238-4815～4816
FAX 054-237-9362

4 出願上の注意

(1) 出願は、志望するコース・プログラムの1専門分野のみとします。

(2) 専門分野と担当教員については、p.13～19の「静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻の概要」を参照し、出願前に志望する教員に必ず連絡をとり、研究テーマや指導の可能性について相談してください。

なお、不明な点については農学部学務係に問い合わせてください。

5 出願書類及び検定料

| | | |
|----|---|---|
| 1 | 入学志願票 | 本専攻所定の用紙に必要事項を記入のうえ写真を貼付したもの |
| 2 | 受験票 | 本専攻所定の用紙に必要事項を記入したもの |
| 3 | 成績証明書 | 出身大学の学長又は学部長が記入作成し、厳封したもの |
| 4 | 卒業又は卒業見込証明書 | 出身大学の学長又は学部長が記入作成し、厳封したもの |
| 5 | 検定料 (払込受付証明書) | 30,000円を同封の「払込取扱票」により、郵便局の受付窓口で払い込み、「払込受付証明書」を本専攻所定の用紙に貼付し、提出してください。 |
| 6 | TOEIC L&Rテストの公式認定証またはスコアシートの写し(IPテストも可) | A4サイズの用紙にコピーして提出してください。ただし、2020年4月以降に受験したTOEICに限ります。 なお、原本を面接時に確認しますので、受験時に必ず持参してください。 |
| 7 | あて名票 | 本専攻所定の「合格通知受信用あて名票」及び「入学手続案内あて名票」に郵便番号、住所、氏名を記入したもの |
| 8 | 返信用封筒 | 長形3号の封筒(23.5cm×12cm)に郵便番号、住所、氏名を明記し、344円切手(速達)を貼付したもの |
| 9 | 在留カード | 日本国籍を有しない者のみ |
| 10 | 受験許可書 | 現在、官公庁・会社等に在職中の者で入学後も在職する場合は、その長が発行したもの |
| 11 | 学位記の写し又は学位授与証明書 | 出願資格(2)による学士の学位を授与された者は、学位記の写し又は学位授与証明書を提出すること。なお、見込みの者は、当該「修了見込証明書」及び「学士の学位授与申請(予定)してある旨の証明書」(様式随意:学位が得られなくなった場合は、速やかに通知する旨の記載があるもの)を提出してください。 |

6 入学者選抜方法

| コ ー ス | 選 抜 方 針 及 び 配 点 と 判 定 方 法 |
|-----------|---|
| 生物資源科学コース | <p>(1) 選抜方針 生物資源科学の学問分野において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。</p> <p>①学力試験（英語） 配点：50点 （筆記試験を実施せず、TOEICスコアを本専攻が予め定めた換算式で換算した点数を英語の得点とします。）</p> <p>②学力試験（専門科目） 配点：100点 （筆記試験もしくは口頭試問による。）</p> <p>③面接試験 配点：50点</p> <p>(2) 判定方法</p> <p>①学力試験、面接試験の得点を総合して、各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。</p> <p>②以下のいずれかに該当する場合は不合格とします。</p> <p>(1) 学力試験（専門科目）の得点が50%に満たない場合 (2) 面接試験の得点が50%に満たない場合 (3) 総合得点が50%に満たない場合</p> <p>③出願書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p> |
| 応用生命科学コース | <p>(1) 選抜方針 応用生命科学の学問分野や関連産業において、将来、社会の中心的な役割を担う研究者や技術者の育成を目指し、入学後の勉学と研究活動を遂行しうる能力及び学力について、以下の各試験で判断します。</p> <p>①学力試験（専門科目） 配点：50点 ②面接試験 配点：50点</p> <p>(2) 判定方法</p> <p>①学力試験、面接試験の得点を総合して、各専門分野ごとに高得点の者から順に選抜します。</p> <p>②学力試験の得点が50%に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。</p> <p>③面接試験の得点が50%に満たない場合は、他の試験の得点に拘わらず不合格とします。なお、提出書類は、面接試験の評価の基礎資料として活用します。</p> |

● 専門科目^(注)は、志望する「専門分野」を構成する試験科目のうち1科目を選択してください。

(注) 学力試験（専門科目）一覧表はp.10～11のとおりです。

● TOEICスコア（X点）を下記の式で換算した点数を英語の得点（Y点）とします。スコアの提出がない場合は、出願を認めません。

$$Y = \{ (X - 250) / 500 \} \times 50$$

750点以上は50点、250点以下は0点とし、小数点以下は四捨五入します。

7 試験日時

| コース | 期 日 | 時 間 | 項 目 |
|-----------|--------------|---------------|----------------------------|
| 生物資源科学コース | 令和5年12月7日(木) | 11:00 ~ 12:20 | 学力試験(専門科目) (筆記試験又は口頭試問) |
| | | 13:30 ~ | 面接試験 |
| 応用生命科学コース | 令和5年12月7日(木) | 11:00 ~ 12:20 | 学力試験(専門科目) (筆記試験) |
| | | 13:30 ~ | 面接試験 |

8 試験場所

静岡大学農学総合棟(静岡市駿河区大谷836)

9 合格発表

令和5年12月15日(金)(12時発表予定)

農学部ホームページ(<https://www.agr.shizuoka.ac.jp/>)に掲載するとともに農学部掲示板にも掲示します。また、合格者に直接郵便にて通知します。

10 確約書の提出

合格者には入学確約書(本研究科所定の用紙)を郵送しますので、本人署名のうえ、令和5年12月22日(金)までに提出してください。期日までに提出されない場合は、辞退したものと取り扱います。

11 入学手続

令和6年3月に行います。

なお、詳細および必要書類は、令和6年2月下旬に合格者へ別途通知します。

12 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,000円《令和5年度実績額》

(2) 授業料 年額 535,800円(半期分267,900円)《令和5年度実績額》

(注)①授業料・入学料の納入方法については、入学手続書類を送付するときに案内いたします。

②本学では、文部科学省の定める標準額に準拠することとしています。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新料金が適用されます。

13 注意事項

(1) 学力試験、面接試験には、必ず受験票を携帯してください。

(2) 出願後の提出書類の内容変更は認めません。

(3) 払込後の入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

① 検定料の返還請求ができる場合

ア 検定料を払い込んだが、本学大学院に出願しなかった場合

イ 検定料を誤って二重に払い込んだ場合

ウ 出願書類、出願要件に不備等があり、出願が受理されなかった場合

② 返還する検定料の金額

志願者本人の申し出により二重払い込み分又は全額を返還します。ただし、返還に係る振込手数料は請求者の負担となります。

③ 検定料返還請求の方法

上記のア又はイに該当する場合は、便せん等を使って、次の1～8を明記した検定料返還請求書を作成し、必ず「振替払込受付証明書（入学検定料受付証明書）」又は「振替払込請求書兼受領証」を添付して、令和5年11月10日（金）〔必着〕まで静岡大学農学部学務係（〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836）へ郵送してください。

また、ウの場合は、出願書類返却時に「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上郵送してください。

| 静岡大学大学院入学検定料返還請求書 | |
|-------------------|--|
| 1 | 返還請求の理由 |
| 2 | 入試区分（12月入試等） |
| 3 | 出願しようとした大学院研究科・専攻・コース名 |
| 4 | 氏名（フリガナ） |
| 5 | 現住所 |
| 6 | 連絡先電話番号 |
| 7 | 返還請求額 |
| 8 | 返還金振込先・金融機関名（金融機関コード）、支店名（支店コード） ・預金種別（当座・普通）、口座番号 ・口座名義人（フリガナ） ・口座名義人が志願者と異なる場合は、志願者との続柄 |

(4) 合格者のうち、官公庁又は会社等に入学後も在職する者は、入学手続きの際にその長又は代表者の就学承認書を必要とするのであらかじめ用意しておいてください。

(5) 出願書類の請求及び入学試験に関する照会等は、p.5の「3出願手続の(3)出願書類提出先」あて郵便で行ってください。

なお、出願書類の請求にはあて先を明記した返信用封筒〔角形2号封筒(33cm×24cm)〕に210円切手を、入学試験に関する照会には定形封筒に84円切手を貼付したものを送付してください。

(6) 願い出により入学料・授業料を免除することがありますが、詳細は合格者に案内します。

(7) 大規模災害に被災した入学志願者の入学検定料等の特別措置について

大規模災害に被災した志願者の入学検定料について、志願者からの免除申請に基づき入学検定料の全額を免除又は返還します。

詳しくは、専用サイト (<https://www.shizuoka.ac.jp/nyushi/guide/tokubetsusochi/>) をご覧ください。

14 安全保障輸出管理について

静岡大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「静岡大学安全保障輸出管理規則」を定め、外国人留学生の受入れに際し厳格な審査を実施しています。

規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

【参考】「静岡大学安全保障輸出管理規則」

静岡大学規則集 <http://reiki.adb.shizuoka.ac.jp/aggregate/catalog/index.htm>
第2章 組織・運営 > 静岡大学安全保障輸出管理規則

経済産業省「安全保障貿易管理」

<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/gaiyou.html>

ENGLISH PAGE <https://www.meti.go.jp/policy/anpo/englishpage.html>

II 障がい等のある入学志願者の受験上の配慮

障がい等のある入学志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願する前に本専攻と相談する必要がありますので、下記により申請してください。

相談の結果は決定次第、本人に連絡します。

なお、申請前に本学のキャンパス（設置場所、環境等）を見学しておくことをお勧めします。

| | |
|-------|---|
| 申請期限 | 原則として出願の1か月前まで |
| 申請の方法 | 『大学院特別措置申請書』に、『障害者手帳』の写し又は医師の『診断書』を添えて申請してください。 なお、必要な場合は、本人又はその立場を代弁できる方（保護者、出身学校関係者等）との面談を行うことがあります。 |
| 連絡先 | 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学農学部学務係 TEL 054-238-4815, 4816 FAX 054-237-9362 |

III 大学院入試成績情報の提供

成績情報の開示 当該年度の修士課程における受験者で、不合格者に対して試験成績の開示申請を令和6年4月15日（月）から5月15日（水）まで受け付けます。詳細は、静岡大学学務部入試課までお問い合わせください。

学務部入試課 TEL 054-238-4464（直通）
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

入試問題の閲覧 大学院の過去の問題については、農学部学務係及び入試情報閲覧室で閲覧することができます。また、農学部学務係では、著作権者からの同意が得られた場合は、複写できます。

IV 個人情報の取扱い

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「静岡大学個人情報管理規則」に基づいて、次のとおり取扱います。

1. 出願書類に記載された個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績については、(1)入学者選抜（出願処理、選抜実施）、(2)合格発表、(3)入学手続業務、(4)入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究を行うために利用します。
2. 入学者の個人情報については、(1)教務関係（学籍、修学指導等）、(2)学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、(3)授業料徴収、(4)入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究に関する業務を行うために利用します。
3. 上記1. 及び2. の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。
受託業者には、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、個人情報の全部または一部を提供します。

V 学力試験（専門科目）一覧表

| コース/プログラム | | 専 門 分 野 | | 試 験 科 目 | |
|-----------|-----------------------------|------------|---|----------------------------|---|
| 生物資源科学コース | 植物バイオサイエンス 教育プログラム | 果樹園芸学 | ○ | 果樹園芸学 | A |
| | | 野菜園芸学 | ○ | 野菜園芸学 | A |
| | | 花卉園芸学 | ○ | 花卉園芸学 | A |
| | | 応用昆虫学 | ○ | 応用昆虫学 | A |
| | | 植物病理学 | ○ | 植物病理学 | A |
| | | 収穫後生理学 | ○ | 収穫後生理学 | A |
| | | 植物生産管理学 | ○ | 雑草学及び作物学, 果樹機能開発学 園芸生理学 | A |
| | | 分子進化・情報生物学 | ○ | 情報生物学 | A |
| | | 土壌微生物学 | × | 土壌微生物学 | A |
| | | 青果物機能学 | ○ | 収穫後生理学 | A |
| | 木質科学 教育プログラム | 木材化学 | ○ | 木材化学 | A |
| | | 木材接着学 | ○ | 木材接着学 | A |
| | | 改良木材学 | ○ | 改良木材学 | A |
| | | 木材物理学 | ○ | 木材物理学 | A |
| | 地域生態環境科学 教育プログラム | 生態学 | ○ | 生態学 | A |
| | | 環境科学 | ○ | 室内環境学 | A |
| | | 造林学 | ○ | 造林学 | B |
| | | 広域生態学 | ○ | 広域生態学 | B |
| | | 森林防災工学 | ○ | 森林防災工学 | B |
| | | 持続可能型農業科学 | ○ | 土壌圏科学, 持続可能型農業科学 | A |
| | | 環境社会学 | ○ | 環境社会学 | A |
| | | 砂防学 | ○ | 砂防学 | B |
| | | 森林水文学 | ○ | 森林水文学 | B |
| | | 森林遺伝育種学 | ○ | 森林遺伝育種学 | B |
| | 農食コミュニティ デザイン 教育プログラム | 哲学 | ○ | 哲学 | A |
| | | 農業経営学 | ○ | 農業経営経済学 | A |
| | | 園芸イノベーション学 | ○ | 園芸イノベーション学 | A |
| | | 植物圏微生物学 | ○ | 植物圏微生物学 | A |

※表中の専門分野欄において、○は募集する分野、×は今回募集しない分野です。
 ※専門科目は志望する専門分野を構成する試験科目のうち1科目を選択してください。
 ※Aは筆記試験、Bは口頭試問により試験を行います。

| コース | 専 門 分 野 | | 試 験 科 目 |
|-----------|----------|---|----------------|
| 応用生命科学コース | 植物化学 | ○ | 有機化学 |
| | 生物化学 | ○ | 生化学 |
| | 食品栄養化学 | ○ | 食品栄養化学 |
| | 生物工程学 | ○ | 生物工程学 |
| | 応用微生物学 | ○ | 応用微生物学 |
| | 細胞生物学 | ○ | 細胞生物学 |
| | 植物遺伝学 | ○ | 植物分子生物学 |
| | 環境微生物学 | ○ | 環境微生物学 |
| | 動物遺伝子機能学 | ○ | 分子細胞生物学 |
| | 動物情報機能学 | × | 動物機能学 |
| | 植物機能生理学 | ○ | 植物栄養学, 植物機能利用学 |
| | 生物物理学 | ○ | 生物物理学 |
| | 発生生物学 | ○ | 細胞生物学 |
| | 植物機能制御学 | ○ | 植物栄養学, 植物機能利用学 |
| | 光合成学 | ○ | 光合成学 |
| | 食品生命科学 | ○ | 食品栄養化学 |

※表中の専門分野欄において、○は募集する分野、×は今回募集しない分野です。
 ※専門科目は志望する専門分野を構成する試験科目のうち1科目を選択してください。

出願資格（9）～（10）の事前審査に関する案内

1. 選抜の概要

- 特別選抜試験は実施せず、一般志願者と同一の試験を行います。
- 出願受付前に、出願資格の有無を判定する「事前審査」を行います。

2. 日 程

| 項 目 | 日 程 |
|------------|-----------------------|
| 事前審査書類請求期限 | 令和5年 10月 6日(金) |
| 〃 提出期限 | 10月 13日(金) |
| 事前審査 | 10月 16日(月)～10月 20日(金) |
| 事前審査結果通知 | 10月 23日(月) |
| 一般募集入試出願期間 | 10月 30日(月)～11月 6日(月) |
| 入学試験 | 12月 7日(木) |
| 合格発表 | 12月 15日(金) |
| 入学手続 | 令和6年 3月 8日(金) |

出願資格（11）～（14）の“飛び級”に関する案内

1. 選抜の概要

- 特別選抜試験は実施せず、一般志願者と同一の試験を行います。
- 出願受付前に、出願資格の有無を判定する「事前審査」を行います。
- 入試合格者に対しては、令和6年3月の時点で3年次の学業成績を判定（最終審査）し、所定の単位を優れた成績をもって修得することができなかつた場合には、入学を許可しません。

2. 日 程

| 項 目 | 日 程 |
|------------|-----------------------|
| 事前審査書類請求期限 | 令和5年 10月 6日(金) |
| 〃 提出期限 | 10月 13日(金) |
| 事前審査 | 10月 16日(月)～10月 20日(金) |
| 事前審査結果通知 | 10月 23日(月) |
| 一般募集入試出願期間 | 10月 30日(月)～11月 6日(月) |
| 入学試験 | 12月 7日(木) |
| 合格発表 | 12月 15日(金) |
| 成績証明書提出期限 | 令和6年 3月 1日(金) |
| 成績判定(最終審査) | 3月 4日(月) |
| 成績判定結果通知 | 3月 5日(火) |
| 入学手続 | 3月 8日(金) |

3. 出願資格認定基準

- 本学部の学生については、次のとおりとします。
 - 2年次までに開講されている科目全単位数の95%以上を修得していること。なお、必修科目は全単位数を修得していること。
 - 履修した全科目の85%以上が、優（又はA）以上であること。
- 本学の他学部及び他大学の学生については、上記の基準に準じて審査を行います。

4. 3年次の成績判定

- 3年次までの成績証明書を、令和6年3月1日（金）までに提出していただきます。
- 最終審査は、『3. 出願資格認定基準』に準じて行います。
- 専修する分野に関連の深い専門科目は、特に成績優秀であること。

静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻の概要

生物資源科学コース

コースの内容

生物資源科学コースでは、山地から平野までの農林業全体を連続的に見渡し、そこで行われる生産活動を解析し、課題解決に向けた技術を進展させることにより、地域産業の維持・発展と、地域のさらなる活性化を担うことのできる人材の育成を目的とします。静岡県という立地・環境を存分に活かし、静岡の特産品を産出する農林業の現場や技術利用の実地をふんだんに教育に取り込み、さらには、教育を通して地域活性化を行うべく、地方自治体とも協力しながら人材を育成します。

本コースでは、「植物バイオサイエンス教育プログラム」、「木質科学教育プログラム」、「地域生態環境科学教育プログラム」、「農食コミュニティデザイン教育プログラム」の4つの教育プログラムを置き、それぞれの分野の専門性を高めると共に農学がカバーすべき幅広い知識を有する人材を育成します。

植物バイオサイエンス教育プログラムの内容

東海地域は温暖な気候を生かした果樹、野菜、花卉などの園芸作物を中心とした農業が盛んであり、これらの恵まれた資源を活かした産業の発展に寄与するため、農作物の生産性向上、高品質・高付加価値化に向けた技術開発の先進的な理論と応用について教育します。最先端のバイオテクノロジーを駆使して、果樹・野菜・花卉などの農作物の生産、利用に関する新たな理論とフィールド科学を融合した教育カリキュラムにより、幅広い基礎理論と最新技術の理解を深め、広い視野と創造性を備え、産業振興、国際競争力および環境保護といった社会要請に応じて関連産業をリードし、新しい価値を創造する知力を備えた人材を育成します。

| | 専門分野 | 担当教員 | 主要授業科目 | 現在の研究内容 |
|---|----------|----------------------------------|---------------------------------------|---|
| 植物 バイ オサイ エンス 教育 プロ グラ ム | 果樹園芸学 | 准教授◆向井啓雄 | 果樹園芸学特論 果樹園芸学演習 | 環境要因を中心とした果樹生育の生理生態 果実の成熟生理 |
| | 野菜園芸学 | 教授 鈴木克己 | 野菜園芸学特論 | 施設野菜の安定生産、多収栽培技術に関する研究 |
| | | 教授 切岩祥和 | 野菜園芸学演習 | 高品質野菜生産を目指した栽培技術の開発 |
| | 花卉園芸学 | 教授 中塚貴司 | 花卉園芸学特論 花卉園芸学演習 | 花卉の開花調節、生理障害、花色発現及び遺伝子操作 |
| | 応用昆虫学 | 准教授 田上陽介 | 応用昆虫学特論 | 害虫と天敵の相互作用を利用した害虫防除の開発 昆虫共生微生物に関する研究 |
| | | 准教授 笠井 敦 | 害虫防除学特論 | 侵入害虫の生物的防除法の研究 |
| | 植物病理学 | 准教授 平田久笑 | 植物病理学特論 | 植物病の発病メカニズム、病原体と宿主の相互作用 |
| | 収穫後生理学 | 教授 加藤雅也 | 収穫後生理学特論 収穫後生理学演習 | 収穫後の園芸作物（果実、野菜、花）の生理学、生化学、分子生物学 青果物の収穫後生理、貯蔵、流通の生理 |
| | 植物生産管理学 | 教授 稲垣栄洋 | 農業生態学特論 農業生態学演習 | 農業・農村の生態系に関する研究 雑草防除、雑草管理に関する研究 |
| | | 准教授 八幡昌紀 | 果樹機能開発学特論 果樹機能開発学演習 | 果樹の結実生理 染色体工学手法を利用した高品質果樹の開発 |
| 助教 富永晃好 | | | 園芸作物の突然変異体育種 生産現場で生じる課題を基にした生理学的研究 | |
| 分子進化・情報生物学 | 准教授 堀池徳祐 | バイオインフォマティクス特論 バイオインフォマティクス演習 | 大量遺伝子情報を用いた系統解析 | |
| 土壌微生物学 | 准教授 鮫島玲子 | 土壌微生物学特論 | 土壌における窒素循環に関わる微生物に関する研究 | |
| 青果物機能学 | 助教 馬 剛 | 収穫後生理学特論 | 果実・野菜の栄養成分や機能性成分の蓄積機構の解明 | |

◆印の教員は令和7年3月31日で定年退職の予定です。

木質科学教育プログラムの内容

我が国は、森林率約70%を誇る「木の国・森の国」であり、それらの大部分を占める人工林は成熟期にあり、森林資源の育成の時代から木質資源利用の時代へ大きく転換しつつあります。木質科学教育プログラムでは、森林からもたらされる再生産可能な資源である木質バイオマスを高度に有効利用するために、木質成分の化学構造やその生合成および微生物分解機構、高分子複合材料としての木材細胞壁の組織構造やその物性に関する木質科学の基礎的な知識・技術の習得、さらには、新たな需要の創出を目指す高機能木質ナノ材料や木質複合材料の開発、木造建築物の構造力学的な特性の把握、耐久性能や耐火性能の評価手法など木質科学の応用的な知識・技術を習得するとともに、グローバルな視野に立って問題解決ができる高度専門技術者の育成を目指した教育を行います。

| | 専 門 分 野 | 担 当 教 員 | 主 要 授 業 科 目 | 現 在 の 研 究 内 容 |
|---|---------|----------------------|--------------------------------|--|
| 木 質 科 学 教 育 プ ロ グ ラ ム | 木材化学 | 教 授 河合真吾 准教授 米田夕子 | 木質生化学特論 木質生化学演習 I, II | リグニン生分解機構の解明 樹木二次代謝成分の生物活性と生合成機構の解明 木材化学成分の構造解析 |
| | 木材接着学 | 教 授 山田雅章 助 教 田中 孝 | 高分子複合材料学特論 高分子複合材料学演習 I, II | 接着剤ポリマーの物性と接着機構、並びに接着性能、室内空気質の分析 環境対応型接着剤の開発と接着メカニズムの解明 |
| | 改良木材学 | 教 授 小島陽一 准教授 小堀 光 | 改良木材学特論 改良木材学演習 I, II | 木質バイオマスの有効利活用に関する研究 非破壊計測による木質材料の物性評価 |
| | 木材物理学 | 准教授 小林研治 助 教 小川敬多 | 木質構造学特論 住環境構造学演習 I, II | 木質構造接合部の弾塑性解析 構造用木材・木質材料の強度特性の解明 |

地域生態環境科学教育プログラムの内容

静岡では、富士山・南アルプスを擁する豊かな自然と歴史に支えられた特色ある農林業が営まれています。これらの基盤となる生態系や地域資源・地域環境の保全とその利用との調和を目指し、生物、土壌、水質、空気、社会の環境技術を含めたフィールドでの幅広い調査・研究手法を習得し、柔軟な判断力と地球的視野を持った人材を育成します。

| | 専 門 分 野 | 担 当 教 員 | 主 要 授 業 科 目 | 現 在 の 研 究 内 容 |
|---|-----------|----------------------|---|--|
| 地 域 生 態 環 境 科 学 教 育 プ ロ グ ラ ム | 生態学 | 教 授 山下雅幸 | 生態学特論 | 植物の生態、生態遺伝とそのアグロエコシステムへの応用 外来植物及び雑草の侵入生態学 |
| | 環境科学 | 准教授 渡邊 拓 | 住環境科学特論 | 室内空気中に存在する様々な物質の評価 |
| | 造林学 | 准教授 檜本正明 准教授 飯尾淳弘 | 造林学特論 I, II 森林生態学演習 森林生理生態学特論 I, II | 森林の林冠構造と森林生態系管理技術・天然林の動態センサス 樹木の環境応答・適応機構 森林における生理生態プロセスの評価・解明 |
| | 広域生態学 | 教 授 王 権 准教授 菌部 礼 | Advanced Forest Ecology I, II | 生理生態学及びリモートセンシングの結合・流域 レベルでの炭素・水平衡モデル リモートセンシングによる生態系および環境評価 |
| | 森林防災工学 | 教 授 今泉文寿 | 山岳流域防災学特論 砂防工学演習 | 森林の防災機能とその評価 山地流域における土砂移動現象の解明 |
| | 持続可能型農業科学 | 准教授 南雲俊之 | 持続可能型農業科学特論 | 農業生態系における物質循環、水田土壌のリン動態、竹林などの地域資源の利活用 |
| | 環境社会学 | 准教授 富田涼都 | 流域社会学特論 環境社会学演習 | フィールド研究に基づく、環境と社会の関係性についての理念や政策の検討 |
| | 砂防学 | 助 教 高山翔揮 | 砂防工学演習 | 山地流域における土砂移動現象の解明 土砂災害を軽減するための技術開発 |
| | 森林水文学 | 助 教 江草智弘 | 森林水文学特論 I, II | 森林における水・物質循環過程の解明 |
| | 森林遺伝育種学 | 准教授 花岡 創 | 山岳流域フィールド実習 A | 樹木を対象とした形質評価技術の開発、形質の遺伝性の解明、繁殖生態学 |

農食コミュニティデザイン教育プログラムの内容

21世紀の人類が直面する課題はいずれも複合的で、グローバルな視点からのアプローチが求められます。自然科学分野の知識や技術だけでなく、人間社会に対する確かな見識が欠かせません。新しい思考枠組みと新しい教育研究のアプローチが求められるのです。こうした認識のもと、本プログラムでは「農」（農業・農村）と「食」をつなぎ、持続可能な社会・コミュニティをデザインするための教育を進めます。自分の眼で事象を見てとり、自分の頭で考えて、主体的に行動する態度を身につけましょう。自らのビジョンを発信し、それを共に実現するコミュニティを築きましょう。「農」「食」「コミュニティ」「デザイン」の基礎理解を足がかりに、世界へ飛び立ちましょう。

| | 専門分野 | 担当教員 | 主要授業科目 | 現在の研究内容 |
|---|----------------|----------|---------------------------------------|--|
| 農食 コミュニ ティ デザ イン 教育 プロ グラ ム | 哲学 | 教授 竹之内裕文 | 生命環境倫理学特論 生命環境倫理学演習 | 生と死, 生命と環境, 農と食, 健康と幸福, 科学技術と宗教などをめぐる哲学・倫理学 |
| | 農業経営学 | 准教授 柴垣裕司 | 農業経営経済学特論 | 農協活動の総合効果, 農業・農村金融 |
| | 園芸イノベーション 学 | 教授 松本和浩 | 実践園芸学特論 実践園芸学演習 | 園芸作物, 特に果樹の高品質種苗・果実の生 産, 開発及びブランド化に関する研究 在来園芸植物の保護と利活用に関する研究 |
| | 植物圏微生物学 | 准教授 橋本将典 | 植物圏微生物学特論 植物圏微生物学演習 (令和6年度新設予定) | 植物圏に生息する微生物叢と植物の相互作用 の解明および植物圏微生物叢の利活用に向け た研究 |

応用生命科学コース

コースの内容

本コースでは、化学と生物学を基盤とし、基礎と応用の両面から生命科学を総合的に学びます。生物の持つ多様な生命活動の制御機構を分子・細胞・個体レベルにわたるまで幅広く理解し、微生物、植物及び動物資源を効率的に活用することにより、高付加価値物質の開発、生物機能を用いた新規産業の創出、有用物質の生産や食糧とエネルギーの持続的な供給システムの構築といった人類の生活の質の向上に直接貢献できる人材の育成を目的としています。このような研究を自らが主体となつて行なうことができ、解決能力と探求心に富み、また、地域から国内外の産業に貢献できる人材を育成するため、バイオサイエンスやバイオテクノロジーについての高度な学理と技術を国際的な視野から教育しています。

| | 専門分野 | 担当教員 | 主要授業科目 | 現在の研究内容 |
|----------------------------|----------|---|------------------------|---|
| 応 用 生 命 科 学 | 植物化学 | 教授 轟 泰司 教授 大西利幸 准教授 竹内 純 | 植物化学特論 | 植物ホルモンの受容シグナル伝達と生合成・代謝に関わる鍵タンパク質の化学的制御 植物生理活性物質の生合成・代謝機構の解明 植物ケミカルバイオロジー研究における化学ツール開発とそれを用いた植物ホルモンの作用メカニズム解析 |
| | 生物化学 | 教授 平井浩文 准教授 村田健臣 准教授 崔 宰熏 准教授 森 智夫 | 生物化学特論 | 担子菌を用いた木質バイオリファイナリー及びバイオレメディエーションに関する研究 糖質関連酵素の機能解明と生理活性糖鎖分子の構築 生命現象を制御するシグナル分子の探索とその作用機構に関する研究 担子菌-細菌間の相互作用に関する研究 |
| | 食品栄養化学 | 教授 西村直道 准教授 日野真吾 | 食品栄養化学特論 | 栄養成分による腸内細菌叢と大腸内発酵の制御とそれによる疾病の発症抑制に関する研究 食物繊維の脂質・糖質代謝及び腸管免疫機能に関する研究 |
| | 生物工学 | 教授 加藤竜也 准教授 宮崎剛亜 | 生物工学特論 | 生物の機能に基づくカイコバイオテクノロジー 新規ナノバイオマテリアルの相互作用によるウイルスの検出 糸状菌の有用物質生産に関する生物工学的研究 微生物や動物が産生する糖質関連酵素の構造と機能の解明および応用 |
| | 応用微生物学 | 教授 小谷真也 | 応用微生物学特論 | 環境中から新規有用微生物機能の探索とその利用 遺伝子情報を活用した微生物の生理活性物質の異宿主生産 |
| | 細胞生物学 | 教授 笹浪知宏 | 細胞生物学特論 | 脊椎動物の卵膜形成に関する分子細胞生物学的研究 受精の分子機構の解明と繁殖制御への応用 |
| | 植物遺伝学 | 教授 本橋令子 | 植物分子遺伝学特論 植物分子遺伝学演習 | 植物の葉緑体研究、クロモプラスト分化メカニズム解明 |
| | 環境微生物学 | 教授 小川直人 | 環境微生物学特論 | 細菌の芳香族化合物分解機構及び環境応答機構 |
| | 動物遺伝子機能学 | 准教授 與語圭一郎 | 分子生体機能学特論 | 動物の細胞増殖・分化に関わる遺伝子の機能解析 |

| | | | |
|---------|--------------------------------|-----------|--|
| 動物情報機能学 | 准教授◆茶山和敏 | 分子生体機能学特論 | 母乳中ケモカインの生理学的機能性に関する研究 種々の疾病発症に対する食品成分の効果とそのメカニズムの解明に関する研究 |
| 植物機能生理学 | 教授 木村洋子 教授 原 正和 准教授 一家崇志 | 植物機能生理学特論 | 真核生物における熱及び環境ストレス応答の分子生物学的解析 植物における非生物学的ストレス耐性の向上技術に関する研究 植物のミネラルストレス応答特性とその耐性機構に関する研究 |
| 生物物理学 | 准教授 中村彰彦 | 生物化学特論 | 生化学, 結晶構造解析及び1分子計測を組み合わせた酵素機能解析 |
| 発生生物学 | 助教 齋藤貴子 | 細胞生物学特論 | 海洋生物を用いた配偶子の細胞間認識機構に関する研究 |
| 植物機能制御学 | 助教 山下寛人 | 植物機能生理学特論 | 植物のゲノム情報や生体生理情報を活用した機能制御に関する研究 |
| 光合成学 | 准教授 長尾 遼 | 応用光合成学特論 | 植物プランクトンの光合成色素タンパク質の分子進化の解明と応用に向けた研究基盤の開発 |
| 食品生命科学 | 助教 加藤主税 | 食品栄養化学特論 | 酸化ストレスのメカニズムと栄養素による予防効果に関する研究 |

◆印の教員は令和7年3月31日で定年退職の予定です。

大学院入学試験に関する問い合わせ先

静岡大学農学部学務係(〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836)

TEL 054-238-4815, 4816

FAX 054-237-9362